

第30号 (2003年度)



金沢

# 国際親善ニュース



「北東アジア姉妹都市少年フォーラム2003」  
パネルディスカッションを終え、晴れやかな表情の参加者たち

金沢市姉妹都市交流委員会

# 北東アジア姉妹都市

ロシア・イルクーツク市、中国・蘇州市、韓国・全州市の中学生と、金沢市内の中学生が、互いの夢について語り合い、友情を深めました。

「北東アジア姉妹都市少年フォーラム2003」が、2003年7月18日から7月23日の日程で開催されました。また、7月21日には、金沢市立泉野図書館オアシスホールに集まった観客の前で、「私達の夢、世界の夢」というテーマのもと、パネルディスカッションを行いました。

参加者が、共通の言葉として用いていたのは英語。全員にとって、外国語です。最初は、誰もが心配顔でしたが、キゴ山少年自然の家での共同生活や、スポーツ、遊びを通じて、すぐに打ち解けることができました。

パネルディスカッションに先立ち、参加者は4つのグループに分かれ、「国際交流ってなんだろう」、「私たちの今と未来」の2つの話題について、話し合いました。

オアシスホールでのパネルディスカッションには、市内の中学生を始め、150人近くの観客が集まりました。参加者たちは、これからの国際交流のあり方や、自分たちの未来を共に考えることにより、さまざまな国や文化が互いを尊重し、平和な社会を築くことの大切さを実感しました。また、姉妹都市からの参加者の中には、初めて日本を訪れた中学生も多く、金沢で見るものすべてが異文化交流体験となりました。そんな参加者から、「どうして日本では、住宅地の近くにお墓があるのか」、「どうして硬貨に穴があいているのか」などの素朴な疑問が飛び出し、金沢からの参加者にとっては、異なる文化を理解するためには、まず自らの文化を理解しなければならないことを知る機会ともなりました。

多くの観客の前で、英語で意見を述べるという大きなハードルを、協力しあって見事に乗り越えたことで、参加者たちの絆はさらに深まりました。最後の夜のお別れ会では、記念撮影がいつまでも続き、思わず涙がこぼれてしまう場面も…。参加者たちは、いつまでも手紙や電子メールで連絡を取り合い、友情を忘れないことを誓い合って、それぞれの住むまちに帰っていきました。

## フォーラム日程

7月18日(金)

- ・イルクーツク、蘇州、全州からの参加者、金沢に到着



韓国の伝統的な装束を着て  
全州市を紹介する李貞賢さん

7月19日(土)

- ・キゴ山少年自然の家にて、参加者自己紹介、各都市の紹介
- ・金沢城公園、兼六園を見学

石川門の前で記念撮影



7月20日(日)

- ・キゴ山少年自然の家にて、グループディスカッション
- ・ソフトバレーボールでスポーツ交流

7月21日(月・祝)

- ・泉野図書館「オアシスホール」で、パネルディスカッション



泉野体育館オアシスホールで  
パネルディスカッションが行われました

7月22日(火)

- ・山出市長、安達姉妹都市交流委員会会長、石原教育長を訪問
- ・妙立寺(忍忍者寺)見学
- ・和服着付け体験、茶道体験
- ・さよならパーティー



賑やかな雰囲気の中で一服

7月23日(水)

- ・イルクーツク、蘇州、全州からの参加者、帰国

# 少年フォーラム2003

2003 Northeast Asia Friendship Forum in Kanazawa

## イルクーツク



スヴェトラナ・コステリョーヴァ  
みんながそれぞれ違っているから、なおさら面白かった。



アナスターシャ・レオノヴァ  
日本が大好きです。日本語を勉強したい。



アントン・サウハ  
このフォーラムは、僕らが将来、世界の平和と友好を築いていく上で、とても役に立つと思う。



ティモフェイ・フェドリユーク  
僕は、このフォーラムと、金沢で出会った人々を一生忘れない!

## 全州



李平和 (イ・ピョンファ)  
ものごとは、見た目だけではわからない。とにかくやってみよう!



李貞賢 (イ・ジョンヒョン)  
生まれて初めて、自分をとても誇らしく思った。



金根河 (キム・グワンハ)  
みんなを絶対、絶対、絶対、忘れません!



蔡聖祐 (セ・ソンwon)  
日本と韓国はお隣、遠うところもあるけれど、似ているところもたくさんあった。

Irkutsk

Jeonju

Kanazawa

Suzhou

## 蘇州



郁珏 (ユウ・ジエ)  
フォーラムを通して、たくさんの友達ができることが一番嬉しい。



葉雨然 (イエ・イウラン)  
日本人から責任感を、韓国人から思いやりを、ロシア人から明るいい心を学んだ。



俞川 (ユイ・チュエン)  
いつかきっと、美しい金沢をもう一度訪問したい。



王憶竟 (ワン・イージャン)  
和服は、僕に似合っていたと思う。

## 金沢



長谷川都子  
英語が苦手だったけど、外国の友達を話す時にはとても大膽、これからは一生懸命勉強しようと思う。



河村日花里  
みんな英語が上手だったので、最初は少し落ち込んだけど、最後には大きな自信になった。



舘 智大  
フォーラムを通じて、外国のことだけでなく、自分の国のことを知ることができた。



橋本成太郎  
心を開いて、さまざまな文化を受け入れよう。



# バッファロー■アメリカ合衆国



テトコウスキー氏より届いた報告書

**提携** 1962年(昭和37年)

**人口** 26万人

**面積** 105km<sup>2</sup>

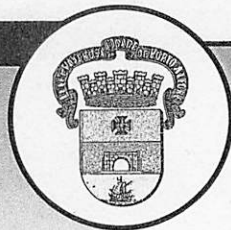
五大湖のひとつ、エリー湖の東にあり、ニューヨーク州西部の政治、経済、教育、文化の中心地。製鉄・製粉などの工業都市として発展した。「五大湖の女王都市」とも呼ばれ、アルブライト・ノックス美術館、1846年創立の州立大学バッファロー校や広大なデラウェア公園があるほか、著名な建築家フランク・ロイド・ライト設計の建物が6つ現存するなど、文化と学術のまちでもある。有名なナイアガラの滝は、北西25kmの所にある。

## 完成！心をつなぐモニュメント

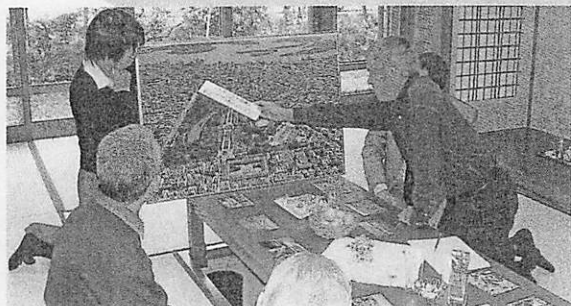
2002年夏に、バッファロー市出身の陶芸家、ニール・テトコウスキー氏を金沢に迎え、多くの金沢市民やバッファロー市民の参加により実現した「コモン・グラウンド・ワールド・プロジェクト」。この時、製作された陶芸作品が、金沢美術工芸大学、金沢卯辰山工芸工房の協力のもと、乾燥・焼成などの行程を経て、完成しました。

完成した作品は、直径約2.5メートルの円盤状で、プロ

ジェクトに参加した100人の金沢、バッファローの両市民が、渦巻き状に手形を入れてあります。作品は、バッファロー市内のスクール71(セブンティワン)の姉妹校として、文通などの交流活動が続けており、プロジェクトにも親子で多数の参加があった。金沢市湯涌小学校に設置されました。また、テトコウスキー氏からは、金沢で開催されたプロジェクトの様子を、参加者の話や美しい写真で綴った、素敵な報告書が届きました。



# ポルト・アレグレ■ブラジル連邦共和国



自らの作品を解説するアマラウ氏

**提携** 1967年(昭和42年)

**人口** 136万人

**面積** 470km<sup>2</sup>

ブラジル南部最大の都市で、リオグランデ・ド・スル州の州都。豊かな農牧地帯とリオデジャネイロに並ぶ良港を持ち、米、ワイン、たばこ、畜産物などの生産のほか、木材、毛織物、金属等の工業も盛ん。四季ははっきりしていて、グウィーバ川沿いに広がる市街は、美しいバトス湖や街路樹に彩られる。まちの入口では、この地のシンボルのガウシヨ(カウボーイ)の像が訪れる人々を出迎えている。

## 空からみたポルトアレグレ

ポルトアレグレ市を拠点に活躍する写真家、エンリケ・アマラウ氏が、ポルトアレグレの街並みや名所を、上空から撮影した作品を紹介する写真展「空からみたポルトアレグレ」が、2003年12月1日から12月12日にかけて、金沢市役所エントランスホールで開催されました。

写真展は、20世紀初頭に建設された火力発電所を文化施設に改装し、現在はポルトアレグレの象徴となっている「ガゾメトル」や、ポルトアレグレ(陽気な港)の語源でも

ある大規模な国際港をとらえた「岸壁」などの18点。どの作品も、豊かな自然、歴史的価値のある建造物、近代都市としての機能など、ポルトアレグレの持つ多様な魅力をダイナミックに伝えるものでした。

また、12月6日には、アマラウ氏自身が、今回展示の行われた作品について、訪れた人々に解説を行う交流会が、石川県国際交流ラウンジで開催されました。交流会で、アマラウ氏は、ポルトアレグレでの日常がうかがえる興味深い話や、ヘリコプターを使って航空写真を撮影する際の苦労話などを、ユーモアを交えて楽しく披露しました。



# イルクーツク・ロシア連邦



給食を体験するイルクーツクの中学生

**提携** 1967年(昭和42年)

**人口** 54万人

**面積** 302km<sup>2</sup>

バイカル湖(世界遺産)の南にある中部シベリア最大の都市で、イルクーツク州の州都。天然資源が豊かで、機械、木材、食品などの工業が発達しているほか、高級毛皮製品などの伝統産業も盛ん。アンガラ川沿いに広がる市街は、美しく落ち着いた雰囲気から「シベリアのパリ」とも呼ばれる。市内には、イルクーツク大学をはじめとした学術施設、先端技術の研究所や工場などが数多くあるほか、市民の文化・芸術活動も盛ん。

## ようこそ！ 中学生親善団の皆さん！！

2003年7月3日から10日まで、アンドレイ・ドウトコイルクーツク市議会議員を団長とする中学生親善団22名が来訪しました。一行は、森本中学校及び浅野川中学校を訪問し、同校の生徒らの企画や日本文化の紹介を楽しむとともに、親善団の団員からもピアノ演奏やエアロビクス演技などを披露し、同じ世代の交流を深めました。また、ホームステイでは、日本の生活様式を体験するだけでなく、ホストファミリーの家族の一員として、楽しい一時を過ごしました。さらに交流会などを通じて多くの市民と触れ合い、たくさん思い出を持ってイルクーツク市へ戻りました。

なお、訪問団には、環境専門家であるナタリヤ・ストゥーピナ環境課課長補佐と経済専門家のマリナ・エレーメヴァ経済課長も来訪し、それぞれ本市施設の視察や職員との意見交換を行いました。



兼六園はあいにくの雨降り

## 「第19回日ロ沿岸市長会」 ペトロパブロフスク・カムチャツキー市で開催

2003年8月20日から21日、ロシア連邦ペトロパブロフスク・カムチャツキー市で、第19回日ロ沿岸市長会が開催されました。日本側からは13市、ロシア側からは姉妹

都市イルクーツク市を含む9市の参加があり、金沢市からは金子衛収入役が出席しました。金子収入役は、会議において本市の環境問題に関する発言を行うとともに、同会議に出席したイルクーツク市のニコライ・ヒツェンコ副市長と意見交換等も行い、両市の絆を深めました。



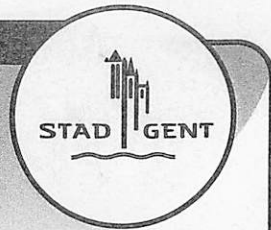
一堂に会した日ロ各都市の代表

## トピックス

### 小松空港—イルクーツク空港の 直行便が実現！！

★石川県ロシア協会では、同協会創立45周年記念事業の一環として、チャーター機を利用した小松空港—イルクーツク空港の直行便を実現させ、2003年8月17日から23日の日程で、ロシア訪問「石川の翼」事業を実施しました。本市からは、同事業の訪問グループのひとつである金沢市ロシア協会訪問団(団長・上田章市議会議員、副団長・田中展郎市議会議員)の顧問として、遠藤玲技監を派遣しました。同団一行は、20日から22日にかけてイルクーツク市を訪問し、ウラジミール・ヤクボフスキー市長を始めとする市民の温かい歓迎を受けるとともに、交流会などを通じて友好を深めてきました。

★このチャーター機の復路便には、前イルクーツク市長のポリス・ゴボリンイルクーツク州知事が搭乗しました。同知事の日程は、本市到着の翌24日に、目的地である東京へ向かうという忙しいものでしたが、24日の早朝、同知事と山出保市長との懇談が実現し、2人は旧交をあたためることができました。



# ゲント・ベルギー王国



先鋭的なコレクションで知られるゲント市立現代美術館

- 提携** 1971年(昭和46年)
- 人口** 23万人
- 面積** 156km<sup>2</sup>

フランダース地方の中心都市で、今も中世の面影を色濃く残す芸術・文化のまち。別名「花の都市」とも呼ばれ、花の博覧会「ゲント・フローラリア」は世界的にも有名。ゲント港はヨーロッパ屈指の内陸港で、繊維、鉄鉱などの産業が発達した。1816年創立のゲント大学やゲント美術館のほか、多くの博物館や旧跡があり、中でも、鐘楼やベギン会修道院などは世界遺産に指定されている。

## 金沢21世紀美術館と ゲント市立現代美術館が交流合意

2003年10月12日から14日にかけて、ナンシー市との姉妹都市提携30周年記念事業に参加するため訪欧した金沢市代表団は、ゲント市も併せて訪問しました。市庁舎を訪ねた赤穂助役らは、フランク・ベーク・ゲント市長と今後の姉妹都市交流について意見交換を行いました。また、金沢市代表団の一員として参加した、金沢21世紀美術館の蓑豊館長は、欧州を代表する現代美術館の一つであるゲント市立現代美術館を訪問し、両美術館の交流について、ゲント市立現代美術館と協議しました。2004年秋の金沢21世紀美術館開館後は両美術館が積極的に交流し、金沢市とゲント市の姉妹都市提携35周年を迎える2006年に、ゲント市立現代美術館収蔵品展を金沢21世紀美術館で開催することに合意しました。

## 金沢市民の歌声が クリスマスのゲント市に響く

2003年12月1日から9日にかけて、ベルギー音楽交流合唱団がゲント市をはじめとするベルギーの都市で公演を行いました。金沢市内の合唱愛好家、約40名から編成された合唱団は、ベルギーを代表とする室内管弦楽団「イ・フィアミンギ」とも共演し、ゲント市が誇る聖バーブ大聖堂に美しい歌声を響かせました。



大聖堂でオーケストラと共演

## 金沢ルネッサンス冬まつり2004 繊細かつ華麗な演技で市民を魅了!

2004年1月30日から2月7日まで開催された「金沢ルネッサンス冬まつり2004」の新体操演技会に参加するため、1月28日から2月4日の日程で、イリーナ・グバノヴァ・イルクーツク市保健局長を団長とする新体操選手団一行7名が来訪しました。

2月1日、金沢市総合体育館で行われた新体操演技会において、同団の新体操選手4名は、中国選手、ブルガリア・ジュニアナショナルチーム及び全日本選手団らとともに素晴らしい演技を披露してくれました。新体操の人気の高さもあって、当日は開場前から多くの方々が訪れていました。演技会が開始されると、観客は目の前で繰り広げられる選手らの繊細かつ華



多くの観客が会場につめかけました

麗な演技、ダイナミックな動きに魅了され、演技終了後も、選手に対する惜しみない拍手が鳴り止みませんでした。

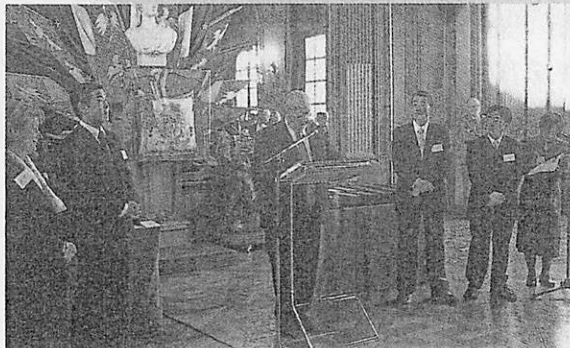
なお、同団は、訪問期間中、冬まつり事業の一環である「ふれあい交流」を行うため小坂小学校に訪問し児童たちとの交流を深め、さらに市内視察等を行った後、イルクーツク市へ戻りました。



小坂小学校でミニ新体操教室



# ナンシー・フランス



記念式典でスピーチを行うナンシー市アンドレ・ロッシノー市長

**提携** 1973年(昭和48年)

**人口** 10万人

**面積** 15km<sup>2</sup>

フランス東部の中心都市で、12世紀中頃からロレーヌ公国の都として栄えた。機械、織物、クリスタルガラスなどの産業が発達しており、20世紀初頭の芸術運動アール・ヌーボー発祥の地としても有名。現在は、学生数3万人の学術都市として、また、国際的な演劇祭や、音楽祭、国立バレエ団がある芸術都市として発展している。スタニラス広場ほかの広場が世界遺産に指定されている。

## 姉妹都市提携30周年

### 金沢市代表団がナンシー市を訪問

2004年はナンシー市との姉妹都市提携が30周年を迎えました。この記念すべき年を祝うため、多くのイベントが行われました。

安達前金沢市議会議長と赤穂敏広助役をはじめとする金沢市代表団が10月16日からナンシー市を訪れました。ナンシー市が金沢市との姉妹都市提携30周年記念事業として開催した「日本週間」に招待を受けたものです。

ナンシー市庁舎で記念式典が開催されたほか、世界遺産に登録されているスタニラス広場では「菊のマジック」と題したフラワーカーペットの制作、市庁舎でのお茶会、オーケストラアンサンブル金沢の音楽監督、岩城宏之氏が指揮するナンシー市交響楽団のコンサートやパリ日本文化会館館長磯村尚徳氏の講演会など、多彩なイベントが開催されました。

赤穂助役は、ナンシー市のアンドレ・ロッシノー市長やリ・アン・シェフェール助役と、今後のさらなる交流進展に関して意見を交わしました。

また、今回の代表団には、金沢市在住のガラス作家、中川純一氏、片山由佳乃氏が参加し、本場のガラス工芸に触れたほか、金沢市立小中学校の美術教諭の新澤博志氏、小中政幸氏が新しい美術を通じた教育の考察のため加わりました。

## 金沢21世紀美術館収蔵品展がナンシー市で開催

ナンシー市で開催された姉妹都市提携30周年記念事業の一環として、金沢21世紀美術館の収蔵品展「Twist in Japan(トウイスト・イン・ジャパン)」がナンシー市立美

術館を会場に10月16日から12月1日にかけて開催されました。金沢ゆかりの作家の漆芸、金工作品と現代作家の作品の計8点が展示されました。開幕式では、本市の赤穂助役、ナンシー市のシェフェール助役が挨拶し、収蔵品展を通して日本美術の今に触れる機会を紹介しました。

## 金沢の伝統工芸品をナンシーで紹介

ナンシー市での「日本週間」開催にあわせて、金沢市伝統工芸品展がナンシー中心部のサンセバスチャン・ショッピングセンターで行われました。金沢市内で伝統工芸品を取り扱うアンテナショップ、金沢・クラフト広坂の村田富子店長が、和傘や加賀織、加賀てまりなどの精巧な工芸品をナンシーで紹介し、ナンシー市民の高い関心を集めました。

## 30年を迎えた留学生交換

1973年の姉妹都市提携から続いている、ナンシーと金沢の留学生交換。ナンシー市からの留学生、ドミニク・キューナンさんは2002年10月から2003年9月までの1年間、金沢美術工芸大学で日本独特の「間」の表現について勉強しました。また、ナンシー市に戻った昨秋、堪能な日本語を生かし金沢市代表団訪問の際の通訳としても活躍し、交流に一役買いました。替わって、昨年の秋より、金沢からナンシーへ向かったのが高本敦基さん(金沢美術工芸大学大学院)。専攻する油絵を中心にフランスの芸術に触れ、ナンシーでの勉強をスタートさせました。



# 蘇州・中華人民共和国



水の都、蘇州を訪問、シルク祭参加の代表団

- 提携** 1981年(昭和56年)
- 人口** 210万人
- 面積** 1650km<sup>2</sup>

約2500年前、「呉」の国の都として築かれた古都。温和な気候と美しい自然に恵まれ、古くから景勝の地として知られる。美しい庭園と寒山寺などの名所旧跡が数多く、拙政園や留園など9カ所もの庭園が世界遺産に指定されている。食の地としても有名で、「魚と米の里」と呼ばれているが、近年は、シルクなどの特産品のほか、近郊に日本企業を含む多くの外国企業が進出し、めざましい経済発展を遂げている。

## シルクの本場、蘇州市へ「蘇州国際シルク祭」参加

2003年9月18日から23日まで、丹後清金沢市日中友好協会会長を団長とし、金沢市と金沢商工会議所のメンバーからなる代表団一行5名が、隔年で開催されている「中国蘇州国際シルク祭」への招待を受けて蘇州市を訪問しました。

一行は、蘇州市の各姉妹都市からの代表や、経済進出している日本を含む数多くの企業関係者らと共に、シルク祭の関連行事に参加し、観光と伝統文化、伝統産業工芸品の振興発展に力を入れる蘇州市の現況を実感しました。また、同年上半期に中国全土で猛威を奮った新型肺炎(SARS)の影響から立ち直り、更なる変貌を遂げて、めざましい経済発展へと突き進む蘇州市の状況をつぶさに視察することができました。

しました。石川県が今後実施するチャーター便の実績次第では、早ければ2004年秋から小松—上海間の定期便が就航する可能性もあり、蘇州市がより一層身近な場所となることが期待されます。



楊市長と会見する丹後会長

## 蘇州市がより身近に!

### 小松—上海 定期直行便の実現に向けて

日中平和友好条約締結25周年を記念して、2003年10月14日から18日まで、谷本正憲石川県知事を団長とする120名の石川県訪中団が、県が友好関係を結ぶ江蘇省の省都南京市を訪問しました。南京での記念祝賀行事に先立ち、金沢市からも池田壽男都市整備部担当部長ほか1名が、共に参加した中村栄一郎副会頭ほか2名の金沢商工会議所団とともに、蘇州市を訪問して、姜人傑蘇州市副市长を表敬訪問するなど、更なる友好関係の発展、継続を誓い合いました。姜副市长は、前職が姉妹都市交流を担当する外事弁公室主任であったこともあり、金沢市を大変身近に、懐かしく感じているとのことでした。

今回の訪問団は、小松空港からのチャーター便で訪中

## 冬の金沢へようこそ!

### 蘇州市姉妹都市視察団の来訪

2004年1月31日から2月3日まで、談工皎蘇州市外事弁公室副主任を団長とする蘇州市姉妹都市視察団一行6名が冬の金沢を訪れました。

団長の談工皎氏は、2002年6月の百万石まつりに来訪以来2回目の金沢訪問となります。一行は、2008年のアテネオリンピックに出場が決まっている中国の鍾玲選手も演技を披露した「金沢ルネッサンス冬まつり2004」新体操演技会を見学するなど、冬の金沢を堪能すると同時に、蘇州市から研修生を受け入れている各民間協会の訪問や視察を精力的にこなし、実質的な相互交流の継続・発展を誓い合いました。



# 全州・大韓民国



全州の子どもの歓迎を受ける山出市長

**提携** 2002年(平成14年)

**人口** 62万人

**面積** 206km<sup>2</sup>

「後百濟」の都で、千年余の歴史を持つ古都で全羅北道の道都。国宝の宝南門や韓式家屋の保存地区など歴史遺産を数多く残している。周辺は豊かな穀倉地帯で、韓国の「食と文化の里」として知られ、王朝料理やビビンバなどの食文化、伝統音楽パンソリに代表される国楽の中心地である。「韓紙」「合竹扇」などの伝統工芸品のほか、国際映画祭・スポーツ大会などを通じ、国際都市としての発展を目指している。

## 更にふかまる両市の交流

2002年にサッカーワールドカップが日韓共催で開催され、日韓交流の機運が一気に高まりました。2003年度も様々な交流が活発に行われています。

2003年5月に山出保金沢市長が全州市を訪問しました。全州市では市を代表する祭、豊南祭が開催されており、山出市長はペーパーフェスティバルの開幕式や千人分のビビンバを作るイベントに参加し、全州市民との交流を深めました。2003年6月には金完柱全州市長が金沢を訪問されました。金市長は百万石パレードに参加しました。オープンカーに乗った金市長は、沿道に集まった多くの市民の歓迎を受けました。また、姉妹提携に多大な貢献を頂いたことに、金沢市から金市長に金沢市特別名誉市民証を贈呈しました。一方、全州市からも山出市長に全州市名誉市民証が贈呈されました。その他、全州市から図書館、庭園、女性福祉の関係者が金沢市を訪問し、それぞれの分野で意見交換を行いました。また、全州市道路交通課の金善中さんが総務省などの支援を受けた自治体職員協力交流事業の協力交流研修員として2003年6月から2003年11月までの約半年、金沢市企業局にて下水道行政について実地研修を行いました。

一方、2003年7月、金沢市議員8名を中心とする金沢市代表団が能登空港から韓国への臨時チャーター便に搭乗し、全州市を訪問しました。2003年9月には、金沢市議会主導で経済、学術、文化スポーツ等多方面にわたる市民相互の交流を一層推進するため「金沢・全州親善協会」が設立されました。また、その記念式典が開催され、朴鍾允全州市議会議長ほか全州市議会議員8名を招きました。今後、市議会同士でも活発な交流が行われることが期待されます。

## スポーツ・文化交流

2003年4月に全州市少年サッカーチームが金沢を訪問し、地元のサッカーチームと交流試合を行いました。また、2003年10月に金沢市早朝ソフトボール連盟が全州市を訪問し、ソフトボールの指導普及に努めてきました。

2002年秋に金沢にて「韓紙・和紙交流展」を開催したのに引き続き、2003年4月に全州市にて「和紙工芸作家展」が開催されました。金沢からは二俣和紙の作品を出展しました。交流展には赤穂敏広金沢市助役と6名の工芸作家が訪問し、韓紙の名産地、全州市の関係者と交流を深めました。2003年12月には全州市立交響楽団が金沢を訪問し、地元音楽家と共演を行い、石川県立音楽堂、金沢市観光会館にて素晴らしい演奏を披露しました。これからは様々な分野で交流が深まることを期待されています。

## 人的交流の促進

金沢市は観光を通して金沢市と全州市の人の往来を増やすことを目的に、金沢市内の旅行代理店、宿泊事業者、交通事業者など観光業界のメンバーと研究会を設立しました。日本を訪問した外国人客では韓国が一番多いとのことですが、金沢市を訪問する韓国客人はあまり多くありません。2003年6月に全州市観光振興担当の職員が金沢市にて観光関係者の説明会を行いました。また、2003年12月には金沢市の観光関係者が全州市を訪問し、地元の観光関係者と意見交換会を実施しました。

両市間の観光交流はまだ始まったばかりですが、「いかに韓国国内で金沢をPRするか」、「どうやったら金沢に韓国からのお客さんがきていただけるか」が今後の課題となります。幸いにもソウル近郊の仁川国際空港と小松空港との空路が2004年4月から週4便に増便されました。両市間の人の往来が今後さらに増えることを期待しています。

# 国・際・交・流

## クラウディオ ヴァスコンセロス

クラウディオ・ヴァスコンセロスという僕の名前が、日本人に、全然聞き取れないことは当たり前です。2年前から日本に来て、自分の全部の名前、Claudio Ricardo Baptista de Vasconcellos (クラウディオ・リカルド・バプティスタ・デ・ヴァスコンセロス)を覚えてくれた日本人はいないと思います。日本に来てから、この名前ですら思いがけず色々困った経験があります。携帯電話を買うにしても、銀行口座や健康保険を作るにしても、名前が長すぎて、小さな文字で書いてもなかなか用紙には入らないのです。その問題を避けるため、日本語に近い名前を当て字で作って、生まれ変わり、今は蔵人と名乗っています。



僕はブラジルのサンパウロの出身で、大学に入ってからブラジリアに住むようになり、そこで日本語の勉強を始めました。日本語をより深く勉強するため、2000年に初めて来日し、京都の大学に留学しました。卒業後、学生生活に区切りがついたので、学んだ言葉を実際に社会で役立ててみたいとなり、自分のできる選択の範囲の中では、国際交流員が最適と思い応募しました。

去年の4月11日に金沢に着いた時の印象は、やはり友人の話通り、気候がちよっと寒いと感じました。しかし、白山の珍しい景色と兼六園に近い新しい僕の住まいを見てからは、だんだんその印象はなくなって、今は長い歴史を持った美しい金沢のまちでの生活を楽しむようになりました。

国際交流員として、相互理解イベントなどに参加するのは勿論のこと、日本にいる日系ブラジル人のためにもいろいろ役に立つように頑張りたいと思います。

## ジェニファー マーキッチ

こんにちは！西オーストラリアの州都パースから来たジェニファー・マーキッチと申します。石川県で3年目です。1年目は輪島で英語の教師をして一昨年の8月から、金沢国際交流財団(KIEF)で働いております。

仕事については金沢市に在住の外国人(留学生が多い)と日本人との交流を目的にイベントを企画実行しています。依頼される仕事もありますが、自分が考えるアイデアを出し、企画するイベントもあります。翻訳も通訳もしたりします。

親子向けの講座をするのは好きです。去年の12月にはクリスマスパーティーを企画しました。当日には雪が降っていて、とても楽しい講座になりました。特に子供たちの元気いっぱい喜んでる顔を見るのは嬉しかったです。

私は、暇な時にはあちこちでギターを弾いたり、カポエイラの練習をしたり、旅行したりするのが好きです。国内旅行も大好きなので、去年は石垣島まで行って来て、とても魅力的な所だと思いました。

金沢市と石川県は私にとって第二のふるさとになって来ました。仕事も毎日の活動を楽しんでいます。



# ◆員◆の◆1◆年◆

ローズマリー  
ドク

金沢市に国際交流員として着任した後、すでに2年半が経過したこともあり、金沢に住むことにずいぶん慣れてきました。私が、ベルギーの友達に金沢の“魅力”を、表現する時に「金沢は、海からも山からもとても近い」と説明します。それはベルギー人にとって、本当に素晴らしいことだからです。

例えば、ベルギーの首都ブリュッセルから砂浜まで、自動車で1時間以上かかりますが、多くのベルギー人にとって、自動車で1時間以上という旅行に行くような感じがします。また、ベルギーでは、スキーをするためにフランスのアルプスまで行かなくてははいけないので、皆、そのために毎年1週間のスキー休暇を取るほどです。このようにベルギー人にとって、“夏の休日は砂浜で過ごせる”、“冬の休日は山でスキーを楽しむ”金沢の環境は、非常に魅力的なのです。



もちろん、海辺でリラックスしたり、スノーボードが好きな私にとっても、海や山から近いことはとても素敵なことです。

金沢で3年目の仕事で、一番印象的だったのは、北東アジア姉妹都市少年フォーラムでした。その時、色々な国々から来た若者の話を聞いた時、遊んだり、素晴らしい交流ができました。彼らの世界平和や未来の夢に関する意見を聞くと、現在の不安定な社会情勢からほほえましく希望が湧いて来るような気がしました。

残念ですが、今年の8月に私の国際交流員としての任期は終わります。

その後、どんな仕事に就くか、どこに住むかまだ決めていませんが、金沢での経験を活かせる国際交流の仕事ができるだけ続けていきたいと考えています。

張永允

アンニョンハセヨ!

私は桜がとてもきれいだった去年4月に韓国からきた張永允です。金沢にきてからほぼ1年近くなりますが、その間、様々な金沢の文化に触れ、また韓国について紹介する機会もありました。

日本へ来て私にとっての一番のできごとは、初めて自転車に乗れるようになったことです。天気の良い日には自転車で、細い道を走ったりします。名の知られた所に行くのも楽しいですが、昔の町並みが残っている路地を走ることが好きです。

去年行った仕事の中で、韓国映画を通じて韓国文化を紹介する講座がありましたが、映画が好きな私は、自分の好きな分野を通して、韓国文化を紹介できて嬉しく思いました。

仕事やプライベートなどで韓国のことを話す機会が多いですが、私が伝えることがそのまま韓国の文化として、日本人に受け入れられるのかと思うと、若干緊張します。でも、韓国の文化に興味のある人々との話し合いはとても楽しいです。

今年も楽しく韓国の紹介をして、また、金沢のみなさんといっぱい触れていきたいと思しますのでよろしくお願ひします。





第30号(2003年度) 2004年3月 発行  
金沢市姉妹都市交流委員会  
事務局：金沢市都市政策部文化交流課  
TEL 076-220-2075 FAX 076-220-2069  
E-mail : bunshin@city.kanazawa.ishikawa.jp